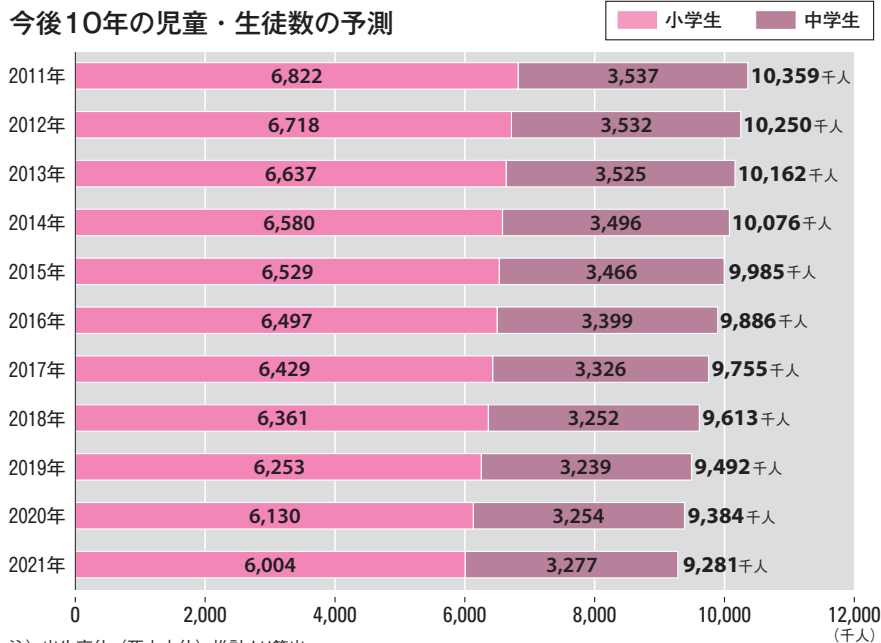


データで見る中学校教育の課題

中・長期的な視点から中学校教育の未来を考えるとさまざまな課題が浮かび上がってくる。今回の特集に関連したデータから、未来へ向けた手立てを考えたい。

1 今後10年で子どもは約1割減少

今後10年の児童・生徒数の予測

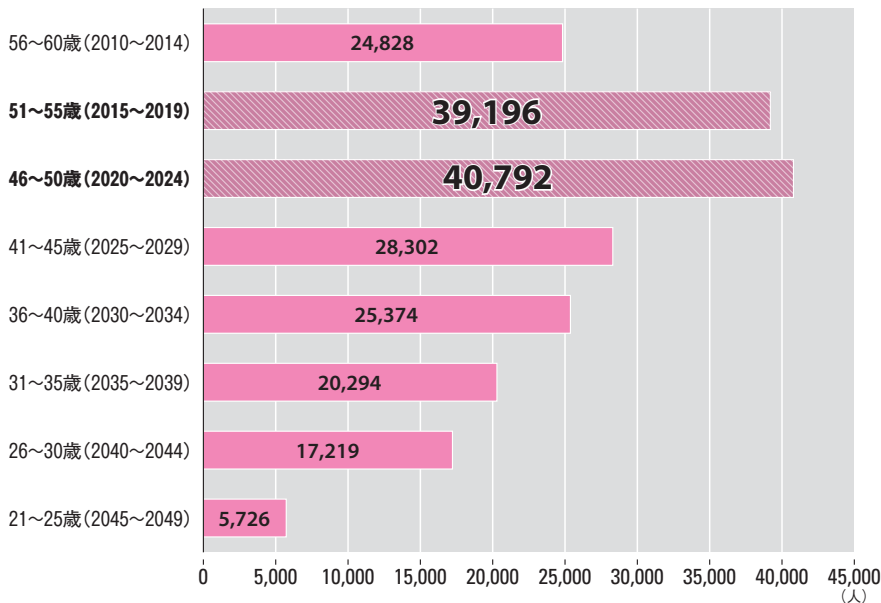


注) 出生高位 (死亡中位) 推計より算出

出典/ 国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイト <http://www.ipss.go.jp/>

2 大量退職のピークは2015~24年

公立中学校の年齢別教員数



注) () 内は該当年齢の教師が定年退職する年度

*文部科学省の資料 (2011.3.31) を基に編集部で作成

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第1回

中学校教育の不易と流行

3 国際比較で見た日本の子どもたちの学力には課題も

OECD生徒の学習到達度調査の結果推移

	2000年(32か国)		2003年(41か国)		2006年(57か国)		2009年(65か国)
読解リテラシー	522点(8位)	➡	498点(14位)	➡	498点(15位)	➡	520点(8位)
数学的リテラシー	557点(1位)	➡	534点(6位)	➡	523点(10位)	➡	529点(9位)
科学的リテラシー	550点(2位)	➡	548点(2位)	➡	531点(6位)	➡	539点(5位)

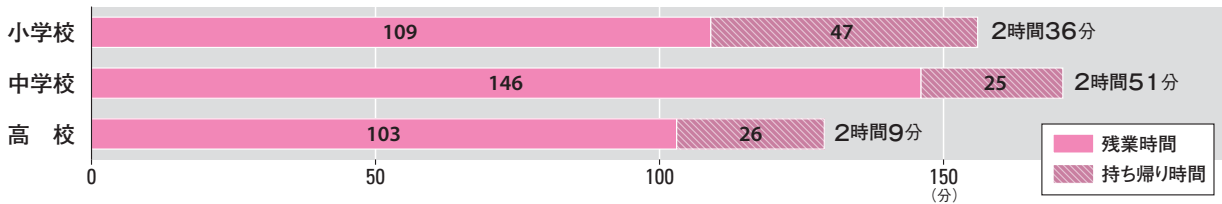
国立教育政策研究所「学力向上に関するこれまでの施策とPISA2009の結果」より抜粋

- 読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある。しかしながら、トップレベルの国々と比べると下位層が多い
- 読解力については、必要な情報を見つけ、取り出すことは得意だが、それらの関係性を解釈したり、自らの経験や知識と結びつけたりすることがやや苦手である
- 数学的リテラシーについては、OECD平均は上回っているが、トップレベルの国々とは差がある
- 趣味で読書をするのではない生徒の割合は、2000年調査から減少(55.0→44.2%)したものの、諸外国(OECD平均37.4%)と比べると依然として多い

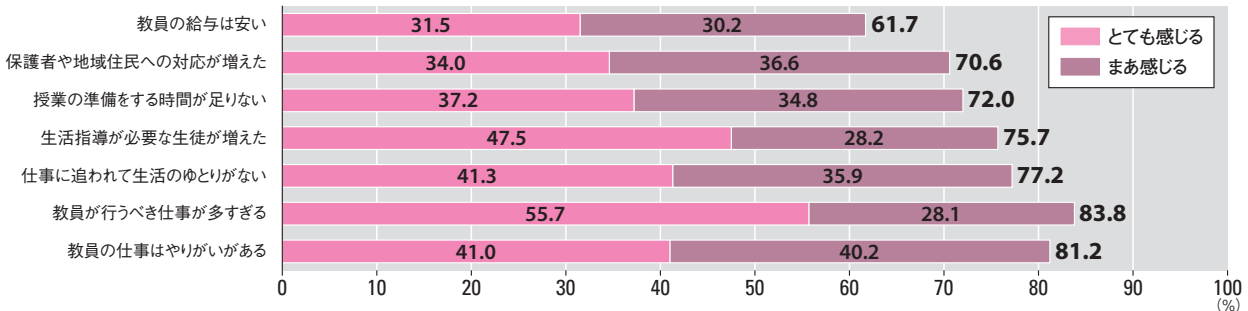
出典/国立教育政策研究所 OECD 生徒の学習到達度調査(PISA)
<http://www.nier.go.jp/>

4 多忙さに悩む中学校教師

Q. 1日の残業時間、持ち帰り仕事にどれくらい時間がかかりますか?(勤務日)



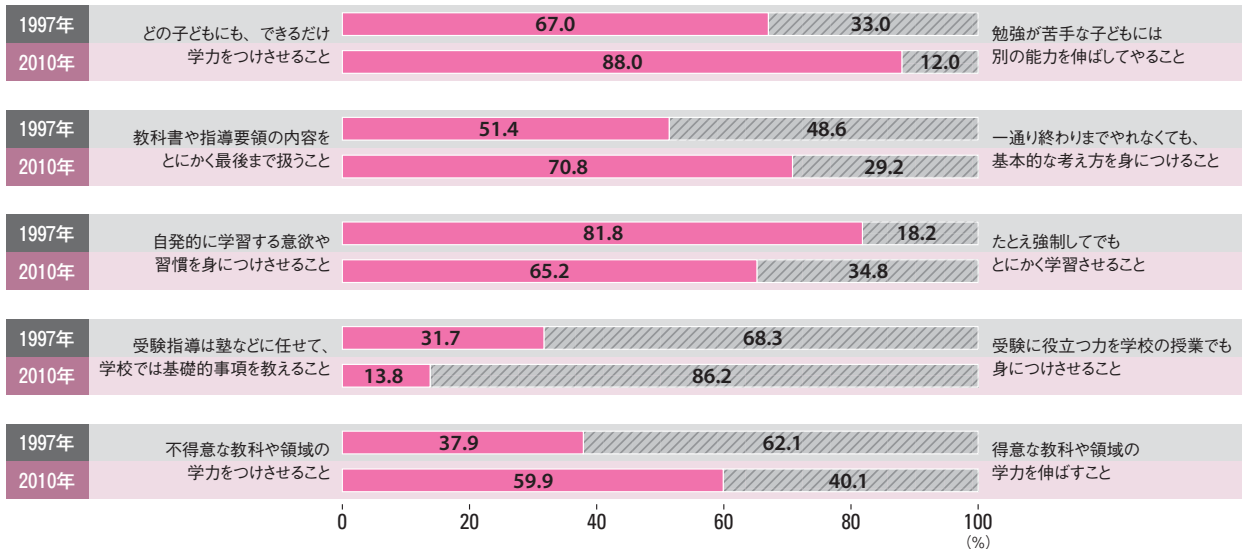
Q. 次のようなことをどのくらい感じますか?(中学校教師)



出典/小・中学校: 東京大学「教員勤務実態調査(小・中学校)報告書」(2007年)、高校: 文部科学省「教員勤務実態調査(高等学校)報告書」(2007年)
<http://benesse.jp/berd/>

5 教師の指導観は「確かな学力」の定着重視へ

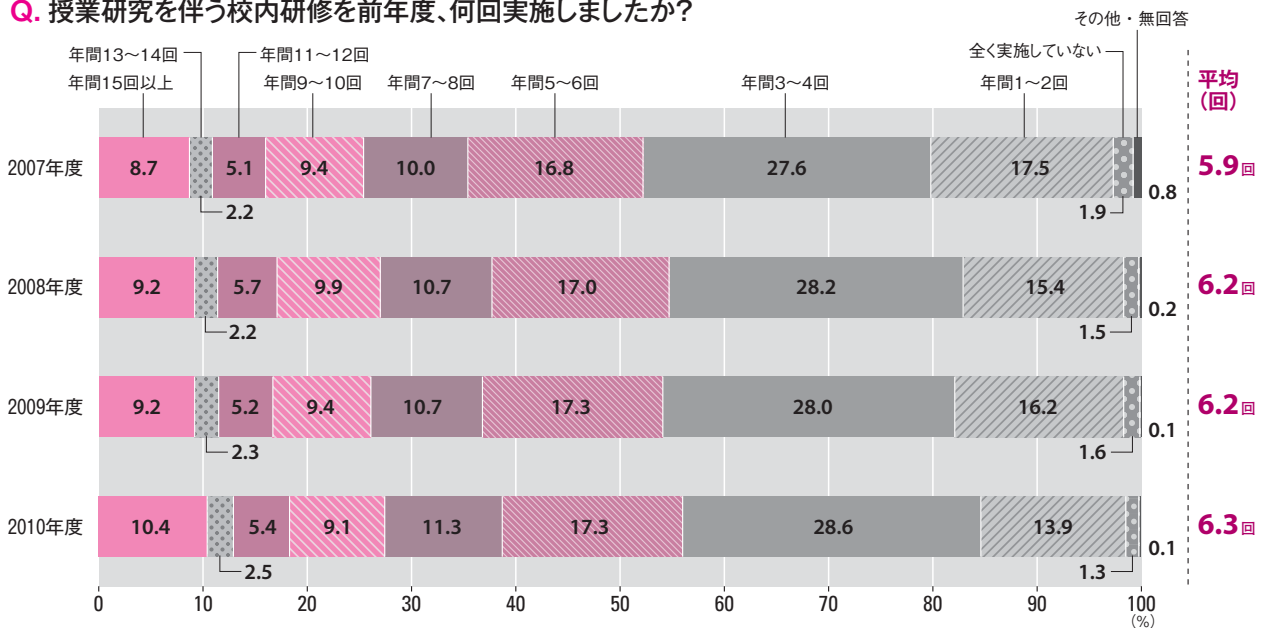
Q. 授業や生活指導の面でどのようなことを大切にしていますか。
あえていえば重視していると思うほうはどちらですか？



出典／ Benesse 教育研究開発センター「第5回 学習指導基本調査」(2010年)
<http://benesse.jp/berd/>

6 授業研究を伴う校内研修の回数は微増傾向

Q. 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか？



出典／ 文部科学省「全国学力・学習状況調査」(2010年)
<http://www.nier.go.jp/>

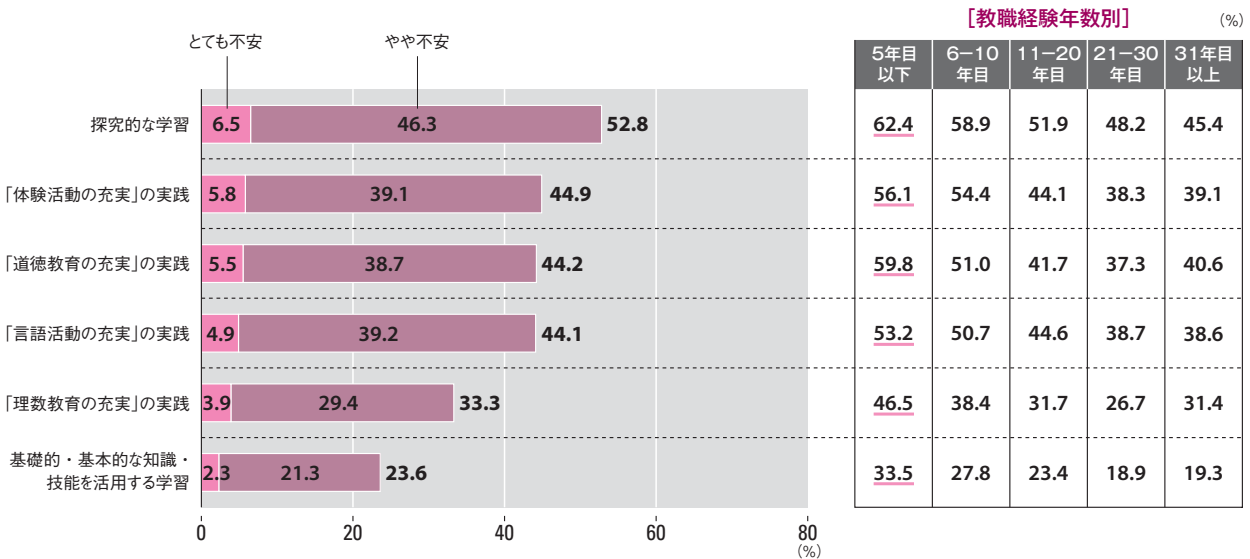
「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第1回

中学校教育の不易と流行

7 5割の教師が「探究的な学習」に不安

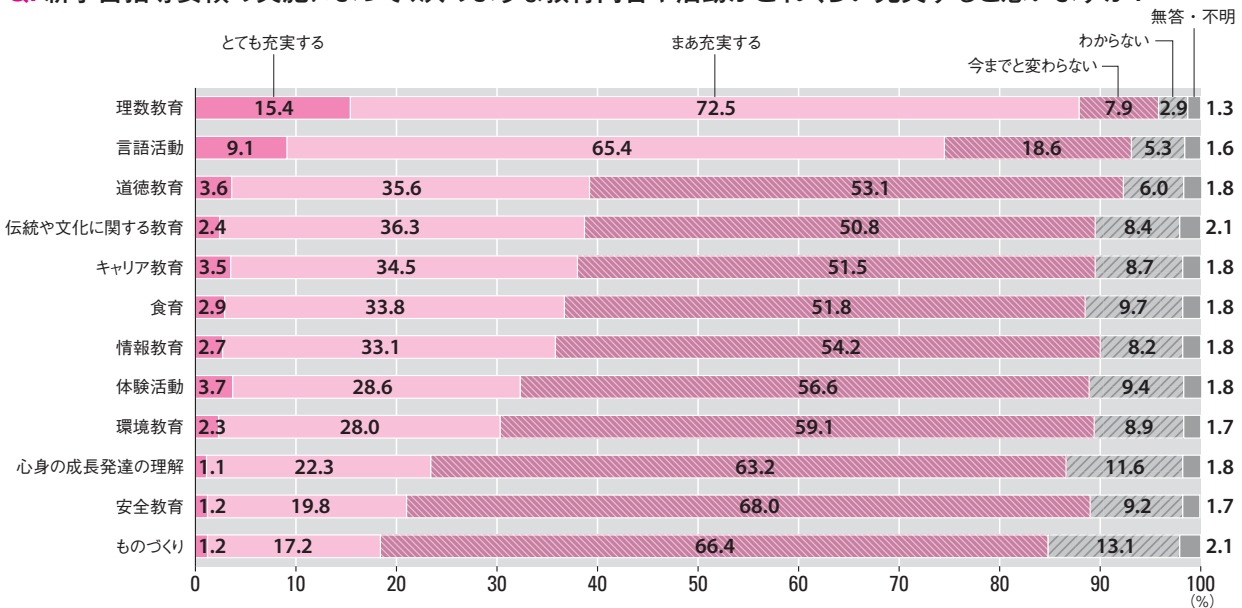
Q. 2012年度から実施される新学習指導要領の以下の内容を実施するにあたり、あなたはどれくらい不安を感じていますか？



注) 教職経験年数別の数値のうち、最大値に下線を引いている
 出典 / Benesse 教育研究開発センター「第5回 学習指導基本調査」(2010年) <http://benesse.jp/berd/>

8 新教育課程では理数教育や言語活動が充実と予想

Q. 新学習指導要領の実施によって、次のような教育内容や活動がどれくらい充実すると思いますか？



出典 / Benesse 教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書」(2010年) <http://benesse.jp/berd/>